

洞爺湖町まち・ひと・しごと創生 新たな定住と交流を育むまちへ



まちの人口は、これからも減少を続け2060年では現在の人口9,308人(2015年国調速報値)から3分の1まで減少を続け3,092人となる推計(国立社会保障人口問題研究所)がされています。この問題解決に向け、有識者会議を設置してこの減少をできるだけ抑制させるため、「洞爺湖町人口ビジョン」やその実現のために実施する具体的な事業計画となる「洞爺湖町まち・ひと・しごと総合戦略」を昨年10月に策定し、人口減少の抑制に向けてさまざまな取り組みを進めています。

【人口ビジョンの人口減少抑制のための目標値】

() 内は国立機関の推計値

区分	2010年	2020年	2040年	2060年
全体人口	10,132	8,938 (8,421)	6,852 (5,345)	5,493 (3,092)
年少人口 0～14歳	998 9.8%	798 8.9%	859 12.5%	776 14.1%
生産年齢人口 15～64歳	5,568 55.0%	7,348 48.6%	3,130 45.7%	2,758 50.2%
高齢人口 65歳以上	3,566 35.2%	3,792 42.4%	2,863 41.8%	1,959 35.7%

5,493人の目標設定 では低すぎるのでは？

この目標を達成させるためには、合計特殊出生率(注1)を現在の1.25→2.07へ上昇、社会増減(注2)を現在の「転出>転入」→「転出=転入」とする高い目標設定により実現できる人口目標です。

※昨年度(2015年)の国勢調査の人口速報では、全体人口9,308人となり5年間で824人減少しています。

平成28年度地方創生関連事業 ～人口ビジョン達成に向けた具体的な事業～ 事業費8億6692万7千円(うち、地方創生交付金7675万8千円)

1 元気産業から雇用 創出を図る

1億3958万8千円

- 産業団体への支援
- UIJターン適職フェア
- 空き店舗起業支援
- 町内消費喚起・経済活性化事業
- ジオ広域連携事業(特産品開発、流通拡大、ブランド化)
- 地熱資源活用事業

2 新しい人の流れを 創造する

5億6471万8千円

- 移住定住促進事業
- 地域体験暮らし事業
- ジオ広域連携事業(観光コンシェルジュ、ジオフェア)
- 国内観光客PR事業
- 特色あるイベント開催事業
- SNS等ICT情報発信助成事業

3 結婚/出産/子育て の希望をかなえる

2994万6千円

- 出会いの場創造事業・婚活イベント
- 出産子育て支援事業・出産祝金の支給
- 医療費、インフルエンザワクチンの無料化(中学生まで拡大)
- 保育環境の充実
- 学習環境の創造事業・教育改善事業
- 社会教育奨励事業
- 地域未来塾

4 地域と地域が連携 する

1億3267万5千円

- 洞爺湖有珠山ジオパークネットワーク広域連携事業
- 西いぶり定住自立圏連携事業
- 災害に強い地域づくり「自助・共助・公助」の体制づくり
- 生活基盤の近接化「小さな拠点」の形成
- 小さな拠点の整備
- 洞爺高校跡地活用事業

(注1) 合計特殊出生率とは？

人口統計上の指標であり、一人の女性が生む子供の平均値を示しています。まちの目標値2.07は将来の人口減少が生じないぎりぎりの数値(人口置換水準)です。現在の高齢者の人数を考えると合計特殊出生率2.07が達成されても洞爺湖町の人口は減少しますが、その減少幅は改善されることとなります。

(注2) 社会増減とは？

人口動態に関する統計で、転入と転出による人口の増減のことを意味します。転入者より転出者が上回っている場合を「転出超過」といい、その逆を「転入超過」といいます。洞爺湖町は「転出超過」が続いており、社会増減において人口が減少し続けています。「転出=転入」とすることで、社会増減による減少を抑制することができるため、転出者と転入者が同じになるよう地域の魅力を高め、住んで良かったと思えるまちづくりを進めています。

地方創生に向けた住民アンケート調査結果

- 結婚のきっかけとして必要なこととして回答が多かった意見
 - ・ 出会いの場の創造や婚活イベントの開催
 - ・ 住宅の提供や補助金の支給
 - ・ 町からの助成(結婚祝い金)
- 出産・子育てに必要なこととして回答が多かった意見
 - ・ 産婦人科や小児科などの医療機関の充実
 - ・ 子育てに関する経済的な支援
 - ・ 子育てと仕事を両立できる職場(雇用)の環境
 - ・ 保育所や幼稚園の充実
 - ・ 通学・就学等の教育支援の充実

このアンケート調査の結果を参考として、経済的な支援のための助成や給付事業などを多く実施しています。

